

乙女高原が好き！ 1702号

夏はボーボー、冬は鬼太郎、なーに？ 谷地坊主

7月1日(土)、朝からザンザン雨でした。乙女高原で川が氾濫したとか森が浸水したという話は聞いたことがありませんが、それでも観察会を行うフィールドが心配だったので、早起きして出かけました。歩くルート of 安全確認をし、湿地も歩き回ってみて、前半、観察を行う湿地はその縁まで歩いて近づけど、後半の湿地(谷地坊主の身体測定をする湿地)は下まで降りずに、上から眺めるだけにしよう決めました。そうして、草原内のアヤメを鑑賞しながらロッジまで戻り、皆さんを待ちました。

雨がザーザー降っていたので、ロッジ玄関に集まってもらい、少しだけ話をし、歩き始めました。とにかく見てもらいたかったのは一面のアヤメ。緑の草原に青紫の映えること。もう一つ、見てもらいたかったのはスミレ。7月だというのに、今頃咲くスミレもあります。エゾノタチツボスミレ。スミレというと背が低いというイメージがありますが、このスミレは背高ノッポ。計ってみたら20センチもありました。この時期だと周りの草花も大きくなっています。だから、この時期に咲くエゾノタチツボスミレは自分も背を高くして、適応しているのだと思います。シカ柵から出るときには、そのドアの「ちょうつがい」にも注目してもらいました。どうしてかって？ それは後ほどのお楽しみです。

前半に観察する湿地に到着しました。駐車場のすぐ下の湿地です。湿地の上から観察しました。まず地形の確認です。湿地の向こう側が高く、こちら側も高くなっていて、真ん中が低く、谷になっています。草原に降った雨がここに集まります。そこに、ボーボー頭のような草株が並んでいます。

「秋になったら、どうなると思いますか？」 秋の写真を見てもらいました。今と同じパンクロック系の頭髪です。「冬になったら・・・？」 初冬の谷地坊主の写真は、ちょっと髪の毛が落ち着いてきた感じです。枯れたからでしょうか。

「ここはとても寒くなる場所です。だから、地面の中が凍って・・・」 巨大な霜柱の写真を見てもらいました。一番大きなもので高さ60cmというのを見たことがあります。できた霜柱が昼間も融けないので、段重ねの霜柱になります。「霜柱は地面を持ち上げる力があるので・・・」と、シカ柵のドアが持ち上げられ、「ちょうつがい」が外れてしまった写真を見せました。さきほど、ドアのちょうつがいをじっくり見てもらったのは、これを実感してもらいたかったからです。ちょうつがいのパイプが完全に鉄の棒から浮いてしまっていました。地面が10センチも高くなり、あの重たいドアを持ち上げたことになります。じつは、この力が谷地坊主の形成に深く関わっています。

さらに「雪が降るとどうなるかという・・・」雪が積もると、積もった雪で髪の毛が押さえられるので、髪の毛が落ち着きます。すると、まさにゲゲゲの鬼太郎のような感じになります。そんなわけで、冬を経験した春先の谷地坊主が一番、ゲゲゲの鬼太郎に似ています。そして、鬼太郎の頭のとっぺんから芽が出て、草が伸びていきます。それがさらに伸びていって・・・いくつかてっぺんから草が生えている写真を見せましたが、とてもかわいいです。それがさらにさらに伸びて、今のこの姿があるわけです。

このように、絶えず今の姿を確認しながら、四季の写真を使って、谷地坊主の1年間を紹介しました。



乙女の霜柱



冬の谷地坊主



春の谷地坊主

いよいよ谷に降りて、谷地坊主を間近に観察しましょう。湿地の中にはイネやススキのように細長い葉が株になって生えている草が何種類かあります。スゲの仲間です。ちょうど穂が出るシーズンなので、穂を手がかりに見分けてみましょう。幸い、1月の乙女高原フォーラムで、勝山さんから乙女高原のスゲについてのお話を伺っていたので、それをもとに4枚のスゲ紙芝居を作っておきました。

まずは穂がだらんと垂れている感じのスゲです。湿地の中を見ると、結構たくさんありますが、よく見ると湿地の真ん中よりは縁に多いような気がします。4枚の紙芝居を順番に見てもらいました。「これは違う…これも…違う…あ、これとおんなじだ」皆さんに選んでもらったのはオタルスゲでした。オタルスゲの体をよく見てもらいました。確かに株になっていて、谷地坊主のように見えますが、葉や茎が生えているのは、まわりと同じ高さの地面からです。



オタルスゲ

次に観察したのは茎の先にトゲトゲした穂がついている、ねこじやし(エノコログサ)のようなスゲです。他のスゲに比べ、葉が幅広です。数はあまり多くありません。湿地の中にも端にもあります。スゲ紙芝居で同じように調べると、オオカワズスゲでした。オオカワズスゲの身体検査をしてみると、やはり葉や茎は、水平な地面から出ていました。



オオカワズスゲ

最後に、この湿地に一番多くありそうなスゲです。今までの2種類よりも葉が細く、穂もスリムです。湿地の真ん中に株になって、いっぱいあります。紙芝居で調べてみると、タニガワスゲでした。身体検査をすると、今までの2つのスゲと違って、葉や茎が生えているところが地面から盛り上がっていて、まさに「頭皮から髪の毛が生えている」って感じでした。そうなのです、これこそが谷地坊主。乙女高原ではタニガワスゲが谷地坊主を作っているのです。



タニガワスゲ

3種類のスゲを見比べながら、湿地沿いの道を歩き、丸木橋のところまで来ました。ここは広場になっているので、ここでじっくり谷地坊主の生き方について、ホワイトボードを使って説明しました。もっとも、雨でボードが濡れてしまい、うまく書けませんでした。あせりました。

「夏の間、タニガワスゲは大きくなります。根っこも成長してもりもり。地面をがっちりつかんでいます。冬になると、霜柱の原理で地面が持ち上がります。でも、タニガワスゲは根っこがしっかりしているので、切れずに株ごと持ち上がります。冬が終わり、春が来ると、持ち上がった地面のまわりを雪解け水が流れ、土を運んで行ってしまいます。ですが、タニガワスゲの根っこのあるところは、根っこがふんばっているんで流されずに残ります。地面が元通りの高さになっても、根っこのあるところだけが高く、まわりは流されて低いままで。こうして、タニガワスゲの株のところだけ少し高くなります。この繰り返しで、毎年毎年少しずつ、谷地坊主は大きくなっていきます」



立派な谷地坊主

実際に近くにある谷地坊主を計ってみると、地面から「頭皮」の部分まで47センチの高さでした。最年少の参加者の男の子と比べてみると、腰のあたりまでの高さになります。立派な谷地坊主ですね。

ここで、後半の観察をする谷地坊主フィールドに移動です。後半は山梨高校寮跡地裏の湿地です。ここでは高いところから観察できます。つまり、全体像が観察しやすいのです。

「ここが後半の観察場所です。昨年、ここで身体測定する谷地坊主を5つ決め、6月と8月に身体検査をしました。高さや幅を計ったのです。今日の観察会で今年の方の身体測定をし、昨年の記録と比べてみようと思っていたのですが、今日はやめます。ここから谷



傾斜が急だと谷地坊主はない。



傾斜が緩やかだと谷地坊主ができる。

まで降りるのがたいへんだし、雨でぬかるんでいて、正確なデータが取れないからです」と、昨年の調査票をお見せしました。

「身体検査はできませんが、今日はここで谷地坊主ができる条件について考えてみたいと思います。この下に、谷地坊主がたくさん見えますね？ 谷地坊主沿って丘の上を歩いていき、『谷地坊主がここからいなくなる』というところで、止まってみてください」皆さんが歩みを止めたところは、シダが群生しているところでした。確かに、そこから上流には谷地坊主がいっぱい見えますが、そこから下には見えません。

「ここから上と下、何が違うんでしょうか？」「下には岩がたくさん見えます。上にはありません」「…ということは何？」「岩がたくさん見えるということは、岩が残ったということです。残らなかったもの、つまり流れてしまったものは土などです。シダから下は急傾斜になっていて、それで谷川に岩がたくさん見えるのです。急傾斜なところでは谷地坊主まで流されてしまいます。だから、そもそも谷地坊主はありません。一方、シダから上は緩い傾斜ですから、谷地坊主のまわりの土は流されても、谷地坊主は流されません。ここでは、谷地坊主ができます。では、もっとなだからで、水がたまっているようなところだったら…？ 谷地坊主のまわりの土が流されないの、谷地坊主自体もできないのです！！」

ただ湿地があればいいというわけではなく、絶妙な流れのところにはしか谷地坊主は生まれないということをお伝えしたかったのです。伝わったでしょうか？ 雨が降り続き、参加した子どもたちももう限界と判断し、ここで観察会を終了しました。

思う存分スミレ観察 なんと30種類目発見!

●第1回● スミレハイキング 4月15日(土) 記事:依田 昇さん

4月15日(日)今年第一回目の乙女高原スミレ観察会を行いました。近年スミレもその他の山野草も顔を出るのが早くなる傾向の為、第一回観察会は早い時季に、それと過去に一度も行っていない早春に期待できる場所を選びました。まだ車が通行止めになっている塩平から観察路登山口までを歩いて観察するコースです。

午前9時、鼓川温泉駐車場に集合しました。今回の参加者は塚田さん、角田さん、渡辺さん、ファンクラブの井上さん、芳賀さん、植原さん、私と妻三枝子の8名です。車3台に分乗して塩平の通行止めゲートへ、そこから観察をスタート、この場所は春先山野草がたくさん出るところです、ところが今年はサクラがなかなか開花しなかったように自然界は遅れているようで山野草の姿が見当たりません。

スタートしたもののスミレどころか道路の両端の雑草もほとんど芽を出していません、30分ぐらい歩き道路が大きくU字形に曲がって樹木が伐採されて太陽がふりそそいでいる広場にきました、昨年ここでいくつものスミレが見つかっていました、皆で探し始めると「スミレを見つけました」と声が上がりました、タチツボスミレ、アカネスミレが数株見つかりました。あと一週間ぐらい経てばたくさん見つかると思います。

ここから観察路登山口までの間は、石垣の排水管から顔を出している「ど根性タチツボスミレ」が見つかったぐらいでした。例年、登山口付近で群生していたフモトスミレ等の姿はまだ出始めの葉とやっとわかる蕾だけでした、また昨年27番目として見つかったエゾアオイスミレも期待していたのですが、まだ芽も出していませんでした。5月に入るとここでもたくさん見ることが出来るでしょう。

午前中の観察会を終了。スミレはタチツボスミレとアカネスミレしか観察できなかったのですが、植原さんが見つけてくれた、オツネトソボの観察と塚田さんがスミレ観察と合わせて最近始めたコケ研究のメモ帳と観察グッズはスミレ観察以上の盛り上がりがありました。

昼食後、鼓川温泉駐車場まで戻り、午後用事がある植原さんと別れ、満開の乙ヶ妻枝垂れ桜を車窓に見ながら杣口林道に移動して、「山の神」の石碑がある所で観察を開始しました。早咲きのヒナスミレも開花はまだ無理かと思い探し始めました。山の神が助け舟を出してくれたのか「スミレのプリンセス」と言われる透明感のある淡紅紫色の楚々とした美しいヒナスミレの群落が見つかりました。乙女高原のスミレの代表格はサクラスミレですがヒナスミレも人気のある品種です、今日の観察会は午前中ちょっと心配しましたが、最後にヒナスミレに出会い少し肩の荷が下りました。

●第2回● 二つのすばらしい発見● 5月14日(日) 記事:依田 昇さん

曇り。少し肌寒いので長そでのシャツを着、午前中は高原の遊歩道作りをしました。今年は人数が少ないようですが、毎年参加してくれる方が多いのか遊歩道のロープ張りも2~3回練習すると直ぐ慣れ、順調に作業は進みました。11時ちょっと過ぎには終了した為、昼食を早めにとり12時から観察会を行いました。観察会は13時予定の為、植原さんに後から参加する人を待ってもらい、観察会をスタートする事にしました。

今回の参加者はこの時点で18人です、交流会のリーダー山本さんと私で参加者を2班に分け、山本班は四季

の森の林内から、依田班はヨモギ頭から観察を始めました。両班とも電話で観察内容を知らせ合っていましたので、同じスミレに出会っていると思います。

ヨモギ頭に向かう森のコース沿いには毎年見られるエイザンスミレが出迎えてくれました。小さめの花ばかりでしたが、数は近年では一番多いように思いました。ヨモギ頭はアケボノスミレが至る所に咲いていましたが、アカネスミレ、ヒナスミレは数株だけでした。いつもの所にヒゴスミレの小さな株が4~5株ありました、次回の観察会には花が見られるか楽しみです。ここで新しい参加者1名が加わりました。

四季の森の林内はミヤマスミレが足の踏み場がないほど群生していました。ヒメイチゲもスミレ観察会を歓迎するように咲き誇っていました。残念ですがヒナスミレは時季的な問題なのか全くというほど姿は見られませんでした。

今日のスミレ観察会では二つの素晴らしい発見がありました。一つ目は、四季の森の横の道路の北側の小高い丘の草原にサクラスミレの群落が見つかったことです。今年はグリーンロッジ前の草原ではサクラスミレも、毎年今頃なら咲き始めるミツバツチグリ、キジムシロ等の山野草も姿を見ることができませんでした。サクラスミレの観察は三回目の観察会だと思っていたのですが思いがけず素晴らしいサクラスミレが見られました。さらに次回の観察会のテーマにもなるようなサクラスミレの出現、4~5年前にロッジ東側の森で見つかったチシオスミレになり始めの、葉裏が70%ぐらい薄い紅紫色になっている株が二株ほど確認できたことです。四季の森で新たに2名の方が加わり参加者は総勢21名です。

二つ目は、昨年に続き30番目の新スミレが見つかった事です。「フギレミヤマスミレ」(ミヤマスミレ×エイザンスミレ)です。すばらしい姿で現れました、21名の参加者が確認してくれましたので同定しました。

第二回スミレ観察会は両班が焼山峠で合流、解散となりました。塩平に下る人、杣口に下る人と別々に帰途につきました。私は観察路の入り口周辺が見たく塩平方面に下りました。ここはフモトスミレのたくさん咲くところですが今回は小さい株が少し見つかっただけです。まだ早いのか？終わってしまったのか？昨年見つけたエゾアオイスミレも見つかりませんでした。マルバスミレはまずまずの数で、きれいに咲いていました。次回の観察会を楽しみに4時30分、観察路入口を後にしました。



●第3回● 最後の最後にヒゴスミレ 5月20日(土) 記事:井上敬子さん

本年度第3回すみれ観察会が行われました。9時30分に乙女高原ロッジ前に15名の参加者が集まりました。まず乙女高原のスミレパンフレットが配布され、案内人の依田さんから乙女高原のスミレについてのレクチャーがありました。次に植原さんからスミレを探すだけでなく、スミレに関わる生物多様性を知ること話され、スミレを食べるヒョウモンチョウの幼虫を探してほしいとの話も聞いて(注)、観察会が始まりました。

草原の中はまだ花はほとんどなくて、フデリンドウやキジムシロ、ミツバツチグリが所々にあるくらいでした。森のコースを登って行くと、エイザンスミレがたくさん咲いていました。例年になく多いような気がします。またモミの木の下は、マイヅルソウの葉がびっしりと地面を覆っていて、これらもシカ柵の恩恵かと思いました。林をぬけるとサクラスミレが姿を見せ始めましたが、まだ早いようで少なかったです。

展望台に着くと富士山の美しい姿が新緑の林と盆地の向こうの山々の上に大きくうかんでいました。展望台周辺でスミレを探したり、観察をしました。ヒナスミレもまだ残っていて、アケボノスミレはきれいな桜色や紫色に咲いていました。サクラスミレやアカネスミレも数は少なかったですがありました。取材の記者さんも同行していて、依田さんからはその都度、ていねいな説明がありました。ルーペでアカネスミレを観察して毛深いスミレであることを参加者に見てもらったりもしました。ここではヒゴスミレの花を楽しみにしていましたが、葉はたくさんあるのに花は見つかりませんでした。

草原を下って、湿地へ向かいました。谷地坊主(タニガフスゲ)にも緑の葉が伸び始め、花も咲いていました。シロバナサクラスミレは残念ながら、咲いていませんでした。でも、カエルの鳴き声がするので、見ていたら、メスの背にオスが乗り、さらにもう1匹のオスも近づいて蛙合戦です。参加者みんな、谷地坊主の水辺でのカエルを観察しました。やや大きく茶色いガマガエル(ヒキガエル)でした。

ロッジ前に戻って、早めの昼食を、皆で和気あいあいと食べました。この日は各地で30度以上になった暑い日



でしたが、ロッジ前の温度計は24度で、さわやかな風も吹いていました。昼食を食べながらながめると、シラカバは芽吹いてきれいな黄緑の葉が出ているのに、ダケカンバの芽吹きはこれからです。サクラもまだつぼみでした。樹木も種類によって、いろいろな違いがあるのでしょう。

午後は四季の森に移動。四季の森の遊歩道では、ミヤマスミレがたくさん見られました。タチツボスミレ、ヒメイチゲもありました。そして、車道に出て車道沿いの斜面でサクラスミレを観察しました。先週の観察会で見たものは色あせているものもありましたが、新鮮な美しいものもたくさんありました。中にはスミレ団地と言う方がいたくらい、何株も近くにまとまって咲いている所もあり、堪能しました。

次に焼山峠で、先週の観察会で見つけたフギレミヤマスミレを観察しました。花もまだ残っていました。花はついていませんが、切れ込みのある大きな葉や何枚もの切れ込んだ葉のある場所もありました。ヒナスミレやエイザンスミレの花もまだ残っていました。

最後に乙女湖の上の針葉樹林で、シコクスミレを観察しました。まだ咲き始めで、つぼみもたくさん確認できました。コミヤマカタバミがたくさん咲いています。かわいいコチャルメルソウやフタバアオイの花もありました。ここで参加者に感想を書いてもらい、おみやげのスミレのポストカードを差しあげて解散となりました。ところが遅れて展望台に行った植原さんからヒゴスミレが咲いていたとの話があり、見たいということで、数名がもう一度ロッジに戻り、展望台に登りました。すると何とヒゴスミレが1輪咲いているではありませんか。大勢で探した時は見つからなかったのに、どうしたことでしょう。でもまだ開いたばかりで可憐な1輪でした。顔を寄せるとほのかなよい匂いもします。最後のご褒美でした。

下ってロッジ前でお茶会となり、またスミレ談義です。植原さんからキャストのスミレはたくさんいるから、ドラマを探そうと話がありました(注)。宿題の幼虫は探せませんでした。ヒロードツリアブがスミレにきているのは見ました。アブのようなものも見かけました。葉や花びらが食べられたようになったスミレも見ました。これからスミレの花だけでなく、スミレと関わるさまざまなものも観察できるといいなと思いました。

たくさんのスミレに出会えて、有意義な楽しい観察会でした。

【コラム】ドラマとキャスト ※注(植原)

大勢の方がスミレ観察会に参加してくださるのは、とてもうれしいし、乙女高原の保全にとっても、とってもプラスになることです。でも、最近、スミレ「観察」会といいながら「スミレを見て、写真に撮って…それでおしまい。はい、次のスミレは？」になっているような気がして、なんか残念というか、もったいないという気がしています。

ドラマを観るときにキャストが気になるのは当たり前で、自然なことです。「精霊の守り人」のバルサは綾瀬はるかさんだよねとか、「女城主直虎」は柴崎コウさんだよねとか。一方、スミレ観察会のキャストはサクラスミレとかヒゴスミレ…ということになります。これらキャスト(=スミレ)の写真を撮りたくなるのは自然だし、「はるかさんの目がいいよね」とか「サクラスミレの色がいいよね」とか言い合うのも楽しいです。

ですが、キャストはドラマの構成要素です。キャストがどんな事件に巻き込まれ、そこでどんな行動を取り、そして、解決していくのか(場合によっては、何かに飲み込まれていくのか)。また、それぞれのキャストがほかのキャストとどんな「絡み」を見せてくれるのか…などをハラハラしながら、ウキウキしながら、時には主人公に感情移入しながら見る…そういうのがドラマの醍醐味ではありませんか？

「このドラマには〇〇さんが出演しているから、絶対に見る！」とキャスト目当てでドラマを見ることもありますが、反対にキャストの名前なんて知らなくて、ドラマは十分楽しめます。ぼくはドラマを楽しむように、自然観察を楽しみたい。せつかく目の前で自然のドラマが展開しているのに、「キャストはだれだ？」ばかりに気を取られていたら、もったいないと思いませんか？

スミレ観察会でいえば、スミレの花を見ながら、どんな虫が来ているかを見るとか、じっと待ち伏せして、何分待ち伏せしたら虫が来るか時間を計るとか、スミレの葉を食べている虫を探す(ヒョウモンチョウの仲間の幼虫はスミレの葉を食べるものが多いです)とか。そんな要素を取り入れた「スミレ観察会」もいいのでは？…と最近、感じています。

●第4回● 黄色いスミレ・ハイキング 6月3日(土) 記事:植原 彰

本当によい天気。17名の参加者がありました。途中まで車で行き、そこからずっと歩きです。途中、誰かが何かを見つけるたびに立ち止まって観察するので、なかなか前に進めません。日があるうちに帰って来れるのか心配になりました。持参したGPSが標高1900mになった頃、黄色いスミレに出会うことができました。道の脇が側溝ようになっていて、苔むした岩の間を水が流れ落ちていている…そんな斜面に好んで生えていました。道の脇はシロバナノヘビイチゴの花の真っ白なじゅうたん、そこからだんだん視線を上げると、今度はキバナノコマノツメの花の黄色いじゅうたん。対岸の山はまだまだ春の山登りが終わったばかりで、淡い緑色がモコモコしています。そして、真っ青な空！ 夢のような情景でした。

今年の夏も乙女高原・・・シカ柵の効果をぜひ見て！



昨年に引き続き、今年も乙女高原案内人の皆さんが自主的な「案内活動」を展開して下さることになりました。待っているのは、ロッジの前のベンチです。10時ころから3時ころまでです。皆さんに声を掛けていただけるのを楽しみにしています。

なお、乙女高原案内人の皆さんは、ぜひこの活動にご参加ください。乙女高原を訪れた方と会話をするだけでも楽しいですよ。また、乙女高原への設置2シーズン目のシカ柵の効果をご自分の目で確かめていただきたいと思います。

【案内人活動日】

- ① 7月29日(土)
- ② 30日(日)
- ③ 8月5日(土)
- ④ 6日(日)
- ⑤ 11日(金・祝)
- ⑥ 12日(土)
- ⑦ 13日(日)

有効なロープのからまり対策は？ 第18回遊歩道づくり

5月14日(日)の前日は雨。でも、天気予報によると当日、天気は回復するとのこと。当日は「晴天」とは言えませんが、1日、雨が落ちてくることはありませんでした。かんかん照りで、暑すぎるよりずっとよかったです。今回の参加者は全部で57人。去年が74人、一昨年在61人ですから、微減というところでしょうか。受付が終わったら、ペットボトルのお茶を配り、例年通り、ロープ縛りの練習です。毎年やっている熟練者でも、年に一度の作業ですから、ここで勘を取り戻してもらいます。これ、とても大切な過程です。

はじめの会。副市長の飯島さんがあいさつをしてくださいました。そして、班ごとに分かれて作業開始。今回は三枝さんの都合がつかず、救護班に町田さんをお願いしました。けが等がなくよかったです。市職員の皆さんでシカ柵を一周し、壊れたところがないかチェック。

参加者が例年より少ないので、時間がかかるかなと思いましたが、そんなことはありませんでした。

途中、ロープがからまってしまふ事件がありました。参加者の感想カードにも「秋のロープ回収のときに、巻き取り方や紙管のような素材に巻くとか対策をお願いしたいです」などご意見が多かったです。たしかに巻き取り方を工夫するのも一案だと思いますが、それをうまくできる方がいらっしやるのか、総延長2kmにもなるロープ全部を処理できるのか？ 何かにロープを巻き付けるとして、どんなものに巻き付ければいいのか、それをだれが考え、いつ、だれが用意するのか、そんなことをしたら、今度はロープ張りの時に、かえって重くて運搬が大変になるのでは？...などなど。対策の決定打というのは、なかなかありません。「いろいろな条件をてんびんに載せてみると、じつは今まで通りが一番いい」ということになる可能性だってあります。ま、試行錯誤していくかありませんよね。どなたか「ロープからまり対策」を立案し、実行していただけないでしょうか？

さて、そんなハプニングもありましたが、例年通り、11時すぎには作業が終了しました。皆さんが作業に慣れたこともあります。下見の折に、杭をかけやで打ち込んでおいたのもよかったのだと思います。終わりの会を行い、今日の活動は終了です。片付けを済ませ、みんなで和気あいあいとお弁当を食べました。倉庫の前のブナの木に、ちょうど花が咲いていました。



カヤネズミの巣？を再点検

「乙女高原でカヤネズミの巣発見！！」というスクープ。「こんな高標高のところにカヤネズミなんているわけない！」「カヤネズミの巣といえばオギやツルヨシの莖の途中に作る莖上巣(地表に巣を作らない！)」という思い込みが、乙女高原でのカヤネズミの地表巣の発見を邪魔していたという話ですが、その後(も)、ハリウッド映画にも負けなくらいの「大どんでん返し」が進行中(?)です。

乙女高原で見つかった地表巣については、高槻先生の呼びかけに応じた方々によって調査・検討されていま

すが、これらの巣がカヤネズミ(以後カヤ)ではなくアカネズミ(以後アカ)のものではないかという疑義が浮上しています。疑義のポイントとしては、…

- ・巣の大きさがアカは直径20cm。カヤは大きくても15cm。乙女の巣は15cm前後のものが多く、ビミョー。
- ・巣の外装の巣材は、アカは枯れ葉をかみ切って、はりつけた感じ。カヤは葉を裂いていて、伸ばすと長い。乙女で見つける巣の外装は、たしかに枯れ葉がそのままグルグル巻きされているように見える。
- ・巣の内装は、アカもカヤも細かい巣材が詰められている。
- ・巣を持ち上げると、カヤは崩れないが、アカはバラバラと崩れる。乙女の巣のいくつかを持ち上げてみたが、バラバラ崩れる感じがある。だが、巣が古いので、こうなっている可能性もある。…などです。

昨年の草刈りボランティアのときです。「これ、カヤの巣じゃない?!」という言い出しっぱは、草刈りの常連・半場さんでした。半場さんは山中湖村のご自宅近くの草原でカヤの巣を発見しています。標高1230m。これが今のところ、カヤの生息が確認されている最高の標高です。ここでは茎上巣も見つっていますが、今春、山焼き後に半場さんが草原に入ったら、乙女高原のに酷似している地表巣が多数見つかったそうです。乙女は草を刈ったことで巣が見つけやすくなりましたが、山中湖村の草原は山焼きをしたことで見つけやすくなったんですね。今年は特によく焼けたので、見つけやすかったとのこと。

さて、疑義が出されたことで、高槻先生は山中湖村のカヤの巣も乙女高原のカヤの巣も、再検討する必要がある…と判断され、ゴールデンウィーク中に両地域を訪れました。「再検討が必要なんだから現地に見に行く」というこの態度は、科学者らしく自然相手のフィールドサイエンティストとしてとても真摯で、尊敬できる態度だと思いました。そこで、頼み込んで、両日とも同行させていただくことにしました。

山中湖村の草原は乙女よりもずっと面積の大きな草原でした。眼下に山中湖が見え、正面に富士山がドーンと構えていて、絵ハガキのような美しさです。ここで、カヤ(?)の巣を見つめ始めましたが、ススキの株の中心で見つかることといい、草がドーム状に編まれていることといい、大きさといい、乙女高原のものとは違くないのではないかと思います。

高槻先生は「これは」と思える巣が見つかったら、折尺を取り出して大きさを測り、写真をとった上で、おもむろにリュックから箸(!)を取り出し、まるでおいしい料理を楽しむように、巣を解体し始めました。すこしずつバラしては、構造がどうなっているか、出入り口はないか、巣材はどうなっているか、部屋はどうなっているかななどを丹念に調べていました。少し広めの葉が表面にぐるぐる巻きされている外装と、非常に細長い葉(たぶん噛み裂いている)が編み込まれている内装は明らかに別物でした。彼らはその2つを作り分けていました。いよいよ核心である巣内の部屋です。ここでは糞がないか丹念に調べていました。知り合いの学者に頼んで糞に含まれるDNAを調べてもらい、そこからネズミの種類を割り出そうというのです。糞が見つかった巣もありました。

別の日に、乙女高原でも同様の調査が行われました。乙女のカヤの巣については、ウエハラが一応、昨年12月に草原全域を調べ、見つけた巣には「旗」(太い針金の先に幅広の塩ビテープを付け、それに整理番号を書いたもの)を刺しておいたので、見つけるのは楽でした。各巣の状況はそのときに調べて記録しておいたので、「冬の前」「冬の後」の様子を比べるために写真を撮りました。乙女の巣は、ドームの中心が窪んでいたり、また、直している様子もなく、「使われていないんじゃないかな」と思いました。ここでも、高槻先生の箸が大活躍。巣の様子はだいたい山中湖村のものと同じでした。残念ながら糞は見つかりませんでした。

今後、カヤの生息を確かめるような調査が必要になります。たとえば見つかった巣の近くにセンサーカメラを仕掛けて、スコープ写真を撮るなどです。興味のある方はお声掛けください。人手があったほうが調査がスムーズにできたり、多地点での調査が可能になったりすると思います。よろしくお祈りします。

山梨市駅前 街の駅で 乙女高原展

山梨市駅下車徒歩1分(すぐ北)の「街の駅やまなし」での乙女高原展もシーズンとなりました。まだまだ続きます。また「乙女高原で撮った写真の展示をしたいんだけど」といったリクエストもぜひお届けください。いろいろ多様な展示ができるといいと思います。なお、街の駅の中にカフェができたことで、展示スペースが小さくなりました。小さい分、小回りがきくというか、たくさんの方の展示物を用意しなくても済むようになったので、より気楽に展示できるようになりました。展示ボード2枚分(1枚の表・裏)です。いかがですか? 展示に挑戦してみませんか?

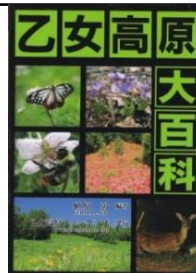


- 乙女高原フェロー…前号でもお伝えしましたが、ステキなマグ・ボトルが景品です。ぜひ、カードを発行してもらい、たくさんの活動に参加し、ハンコをたくさん押してもらってください。
- シカ柵の効果がすごいです。今年の夏はたくさんの花が咲くと思います。ぜひ見に来てくださいね。

乙女高原ファンクラブの刊行物

乙女高原とファンクラブ11年間の集大成『乙女高原大百科』

(A5判 602頁) 草刈り開始後から配信している乙女高原メールマガジン 11年間 268号の中身を編集したら厚さ3cmの本になってしまいました。一部カラー。希望者には実費でお分けします。1冊2,000円、送料は1・2冊なら360円。欲しい方は郵便振込で1冊なら2,360円送金してください。



乙女高原インタープリテーションのテキスト『乙女高原案内人 誕生と成長の記録』

(A4判 186頁) 乙女高原案内人養成講座の中身と、その後の案内人の活動の様子を一冊の本にしました。希望者には実費でお分けします。→[在庫切れ](#)

乙女高原フィールドガイド シリーズ

欲しい方は事務局までご連絡ください。



フィールドガイドⅢ スミレの観察のおともに『乙女高原のスマレ・ウォッチング』

(A3判両面カラー) 乙女高原では、なんと18種類ものスマレを観察できます。このフィールドガイドでは乙女で見られるスマレたちのプロフィールを紹介するとともに、スマレ観察のポイントをていねいに解説しました。

フィールドガイドⅡ マルハナバチの観察と調査のおともに『マルハナバチ ウォッチング改訂新版』

(A3判両面カラー) マルハナバチの生態、ファンクラブで行っている調査、乙女高原で見られる6種(+2種)のマルハナバチの見分け方をコンパクトにまとめました。2015年に改訂版を出しました。

フィールドガイドⅠ 春から夏にかけて咲く草花のガイド『乙女高原のお花たち』

(A3判両面カラー) フィールドガイド第1号。春から秋に咲く47種類の草花を写真つきでコンパクトに紹介。草丈表示と草花の一言コメントが「分かりやすい」と評判です。2013年6月に第3版発行。

■乙女高原ファンクラブの普通会员になりませんか？

『数は力』という側面もあります。ファンクラブの会員が多くなれば、それだけ乙女高原の保全に対するファンクラブの発言力が増します。まわりの方をファンクラブに『巻き込む』ことも乙女高原を守る活動の一つです。まわりの方にファンクラブをお勧めください。

乙女高原ファンクラブに入会するには…

- ・「入会します 氏名・郵便番号・住所・電話番号」というファックス、メール、手紙等を事務局までお届けいただければ、いつでも、だれでも会員になれます。
- ・入会金も年会費もありません。乙女高原を守る力が1人分、大きくなります。
- ・普通会员には年4回、サポーター会員には年1回、ニュースレターが届きます。
- ・普通会员には総会出席の義務がありますが(委任状可)、サポーター会員にはありません。

今号は普通会员のみに送付しています。

■乙女高原ファンクラブへの連絡先■

【事務局】 植原 彰(方) 〒404-0013 山梨県山梨市牧丘町窪平 1110-3

TEL/FAX 0553-35-3682 電子メール otomefc@fruits.jp

※会報への原稿や写真等の投稿もこちらにお送りください。

WEB <http://fruits.jp/~otomefc/>

●郵便振込● (番号) 00220-8-71093 (加入者名) 乙女高原ファンクラブ